

群馬大学大学院

保健学研究科 保健学専攻

Gunma University Graduate School of Health Sciences Guide

博士
前期課程

2018

博士
後期課程



保健学研究科長挨拶

大学院保健学研究科は保健学の研究を行い、高度な保健医療人に加え保健学研究者と教育者を養成するために、平成23年度に大学院医学系研究科から独立しました。博士前期課程と後期課程で構成されています。

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害の構造が大きく変化するとともに、新たな保健医療問題が多数生じています。また、国民の健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。こうした人間の健康を維持するための取組みは、病気の解明や新しい治療法の開発のみでは達成できません。その理由は、人々の健康が社会・政治・経済状況、地域性、さらにケアに携わる様々な医療人の資質に大きく左右されるからです。保健学は、健康な生活に向けた統合的なアプローチを行い、健康な人たちで構成される地域社会を目指す学問と考えられます。

一方、国際社会においては保健人材の不足が深刻化しています。国連やWHOは、AIDS等の感染症の撲滅や周産期・小児期死亡率の低下に向けた世界的な取組みを行っており、質の高い保健人材育成をはじめとした保健システムの強化を求めています。

こうした社会的要請に応えるため、博士前期課程では研究対象課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学 ユニット」、「地域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプローチの研究・教育体制を構築しました。博士後期課程では、専門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」に分けたカリキュラムを組み立てています。こうして、全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を持つ保健学研究者・教育者そして実践者の養成を行っています。

本研究科では、既に医療・保健の分野で活躍されている方々が、現場で直面する様々な問題を研究課題として取り組む地域密着型の研究体制を構築しています。これは、平成19年度に『文部科学省大学院GP』として高い評価・支援を受けて始めた「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」事業を基盤としています。この地域交流に基づく教育は、『教育GP』として支援を受ける学部教育と合わせて、学部・大学院の一貫した教育システムとなっています。また、先進的チーム医療教育の実績は国際社会から高い評価を受け、平成25年にWHO協力センターに指定されました。チーム医療教育に関する研究、アジア地域の教育者・実践者への指導・トレーニングおよびガイドラインの開発などを積極的に進めています。さらに、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター(CRC)の育成を行うCRC管理者養成コースも開設しています。平成26年度には、『文部科学省GP：課題解決型高度医療人材養成プログラム』の優れた取り組みとして「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」事業が採択されました。超高齢社会において「地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護」が提供できる人材養成を全国に先駆けて行っております。

こうした具体的な成果を基に組み立てられた教育システムで、社会の要請に対して真摯に耳を傾け、新たに生まれる課題に柔軟にそして創造的に対応する能力を養う意欲のある皆様の入学を期待しています。



保健学研究科長
村上博和

CONTENTS

保健学専攻博士前期課程

概要	1
各ユニットの特色	2
教育研究分野	3
カリキュラム編成	5
授業科目	6

保健学専攻博士後期課程

概要	7
各領域の特色	8
教育研究分野	9
カリキュラム編成	11
授業科目	11

保健学専攻博士前期課程・後期課程

特色のあるプログラム	12
入学から修了までのプロセス	12
修学支援・教育支援・修了後の進路	13

概要

1. 教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1) 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する者
- 2) 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する者
- 3) 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる者
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる者

<入学者に求める能力・資質>

- 1) 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 2) 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の教育者・研究者を志す人

<選抜方法>

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。なお、小論文は保健、医療一般に関する知識及び思考力を問います。外国語は保健、医療の分野に関する英語の文献を読解する能力を問います。また、一般入試のほかに社会人入試を実施しています。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

保健学専攻博士前期課程では、人材の育成を通じて社会へ貢献するために、次のような教育を行います。

- 1) 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得させる教育
- 2) 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3) 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

修了要件を満たした次のような者に修士の学位を授与します。

- 1) 学部における研究、教育を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質（QOL）向上のための独創的あるいは学際的な研究を進められる者
- 2) 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた者

2. ユニット・領域及び教育研究分野

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎 保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学 分野	基礎 リハビリテーション学 分野
応用 保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学 分野	応用 リハビリテーション学 分野
地域・ 保健学 国際 ユニット	地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学 分野	地域・国際 リハビリテーション学 分野

各ユニットの特色

基礎保健学ユニット

〔教育研究分野〕

基礎看護学分野

基礎生体情報検査科学分野

基礎リハビリテーション学分野

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行う。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行う。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものである。

応用保健学ユニット

〔教育研究分野〕

応用看護学分野

応用生体情報検査科学分野

応用リハビリテーション学分野

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行う。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれる。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行う。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものである。

地域・国際保健学ユニット

〔教育研究分野〕

地域・国際看護学分野

地域・国際生体情報検査科学分野

地域・国際リハビリテーション学分野

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導する。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行う。さらにチーム医療教育機関のネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的職種連携医療教育を推進する。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものである。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を实践する高度専門医療人である専門看護師（老人看護）の教育・養成を行う。

教育研究分野

基礎保健学ユニット

■基礎看護学分野

基礎看護学分野においては、いわゆる基礎看護学と看護管理学があり、次のような内容で教育・研究指導を行う。

基礎看護学では①看護理論（主要な看護理論を用いた看護方法論の構築）、②看護介入論（看護独自の介入方法、介入の効果についての検証と新たな技法の開発・探求）、③看護教育論（看護教育制度の変遷、継続教育カリキュラムの編成や評価法）、④基礎看護学演習（研究課題に適した研究方法、看護研究方法論や基礎保健学データ解析等）を学び自己の研究課題解決に向けて学習する。看護実践の基礎となる関連学問領域の諸理論および看護の諸理論を探求し、基礎看護学に関する研究諸課題を総合的な視野から幅広く捉えて研究する。また、院内感染対策や与薬管理等の管理学的要素を加味した研究や、人体構造機能学的見地に立った身体の捉え方を中心としたアセスメント法を研究する。

看護管理学では、看護管理に関連する理論や方法論について教育・研究指導を行う。看護を取り巻く様々な課題を探求し、理論や方法論を通して解決策を探り看護管理に関する研究課題を総合的に捉え研究する。また、リーダーシップを発揮して実践の場の変革を促す実践能力やCNS（専門看護師）としての役割についても学習する。



■基礎生体情報検査科学分野

基礎生体情報検査科学分野においては、分子レベルでの生体情報の効率的な収集技術の開発並びに得られた情報の解析手法の構築について教育・研究を行う。本分野では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学分野の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。

■基礎リハビリテーション学分野

基礎リハビリテーション学分野においては、障害の

解析及び機能評価や機能回復に関わる基礎医学的、基礎理学療法学・作業療法的な研究を行う。リハビリテーションの対象となる神経系、運動器系、内部障害系の各種疾患によって引き起こされる機能障害・活動制限・参加制約の機序を解析するために必要となる幅広い知識・技術の向上を目指す。また、経過観察や効果判定に不可欠な評価方法を検証するとともに、機能回復のメカニズムを究明するための形態学的、生理学的、動作学的な手法についての研究を行う。

応用保健学ユニット

■応用看護学分野

応用看護学分野においては、病院、施設における看護支援をコアにしなが在宅・地域への広がりをもつ応用看護を追求する分野である。その構成は慢性看護学、がん看護学、精神看護学、母性看護学・助産学及び小児看護学からなる。

慢性病、がんとともに歩む患者と家族、精神疾患とともに生きる患者やその家族の認知や反応、対処行動、セルフマネジメント獲得プロセスの現象を質的及び量的など統一的、系統的に解明し、新たな看護支援を開発する教育・研究指導を行う。精神の健康、がんや慢性病の適応、セルフマネジメント、サバイバーシップ、人間対人間の相互作用の基本となる対人関係能力・コミュニケーション能力に関する研究を行い、障害を持つ人々に応用できる科学研究を行う。

また、性と生殖に関する健康課題や周産期における女性の健康課題の解明、分娩時の安全性を確保するための助産技術の開発、助産師と産科医師の連携体制の構築など、周産期における女性とその家族への科学的根拠に基づく助産ケア及び自立した助産活動が実践できる助産師の育成に応用できる教育・研究を指導する。さらに新生児期から思春期における健康問題や発育発達の課題について、家族も含めた支援や保健医療福祉専門職との連携を含めた療養支援システム構築について教育・研究指導を行う。

慢性疾患看護、がん看護及び母性看護専門看護師などの高度看護専門者を育成する。また、教育プログラムの開発とその応用に関する教育・研究指導を行う。



教育研究分野

■応用生体情報検査科学分野

応用生体情報検査科学分野においては、細胞の形態変化と病態との関係や細胞増殖の動態変化と病態との関係、細胞解析法の新たな開発及び生体機能の基礎的データの解析法や生体機能測定法の新たな開発、生体機能と病態との関連について教育・研究を行う。さらに、本分野は、連携という意味において、総合大学である本学の特徴を生かして、医学系研究科（医科学専攻及び生命医科学専攻）、医学部附属病院、生体調節研究所、重粒子線医学研究センターなどと緊密に連携しながら、研究と教育を推進する。

■応用リハビリテーション学分野

応用リハビリテーション学分野においては、運動器系の障害やスポーツに伴う障害に対する介入方法、健康増進のための運動療法、アスレティックリハビリテーションなどの研究を行う。スポーツ障害・外傷の発生に関して運動学的解析や体力科学的なアプローチを行い、障害予防のための効果的な介入方法についての研究を行う。また、身体障害系・発達障害系・老年期障害系・高次神経障害系・精神障害系の作業障害に対する介入方法に関する研究を行う。対象者に対するケアプラン、ケースマネジメントなどの地域への適応に関連する専門的支援についての研究も推進する。

地域・国際保健学ユニット

■地域・国際看護学分野

地域・国際看護学分野においては、地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした看護技術とその評価に関する研究、特に、地域ケアシステム構築や施策化、地域の健康づくり推進、ケアマネジメント等、行政保健師が関わる研究課題を中心に教育・研究指導を行う。また、ヘルスプロモーションや、それに内包される健康教育と社会・文化・政策的環境への介入に関する教育・研究指導を行う。

高齢者ケアのアウトカムを高めるケア方法・用具の開発と質改善の取り組み、及びケアの経済・経営評価について、在宅療養のケアマネジメント、訪問看護ステーションの経営戦略を課題とした教育・研究指導を行う。在宅療養生活に関連する看護支援について、療養者本人や家族、地域ケアシステムを視点とした研究、特に医療ニーズの高いがん患者や難病療養者をはじめとする慢性病患者を対象とした看護支援の課題について教育・研究指導をする。また、老年看護分野において高度な専門性を発揮する老人看護専門看護師の養成

教育を行う。

看護協力計画の開発や発展途上国における看護教育の支援技術、国内外の災害支援技術、災害看護に関する課題について教育・研究指導を行う。また、国際協力計画に参画し看護の立場から高度専門職としての実践能力を発揮できる人材を育成する。

■地域・国際生体情報検査科学分野

地域・国際生体情報検査科学分野においては、微生物や寄生虫感染症の特殊検査法の開発、病院における感染予防管理のための効果的な処理法の開発及び感染の初期防御での細胞の働きから、最新の免疫学に関する教育・研究を行う。また、観察的研究手法、介入的研究手法等の疫学の理論的側面の教育により、国内外の保健医療分野に寄与する疫学的病因追求実践能力を養成する。さらに、マラリア等の国際感染症や国内外で問題となっている新興・再興感染症の迅速かつ簡便な検査技術の研究・開発を始め、各国・各地域において生ずる様々な公衆保健学的問題に対処できる高度な能力を涵養するための教育・研究を行う。生体を取り巻く環境からの保健情報の迅速かつ簡便な検査法開発とその情報を基に、地域・国際の保健対策と評価を実践する。検査・疫学・予防についての高度な知識・技術により、開発途上国の保健医療分野での活躍ができる特色がある。

■地域・国際リハビリテーション学分野

地域・国際リハビリテーション学分野においては、国内外各地域におけるリハビリテーションの実際とその効果、地域に暮らす障害者・高齢者の生き方やニーズなどの研究を行う。認知機能の低下や神経・精神疾患などを有する対象者に対する効果的な関わり方や生活自立への支援、介護予防についても研究する。また、就労支援、認知活動活性化用具の開発、環境因子に対するサービス、国際協力・支援などに関する研究も行う。



カリキュラム編成

本専攻の教育カリキュラムは、1ページの「教育ポリシー」に基づき、看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3領域を横断的に連携一体化させた基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニットの3つのユニットで構成されています。授業科目はユニットコア科目と専門教育科目からなっています。学生は所属するユニットのユニットコア科目と他領域の専門教育科目を取得することにより、保健学に関する横断的知識・技術を修得することができます。

ユニットコア科目は、保健学の全人的・包括的知識・技術を修得する科目です。

専門教育科目は、専門分野の知識と技術を修得し、高度専門医療人としての能力と研究の基礎能力を向上させるための科目で、必修科目の特論、演習、特別研究及び選択科目からなっています。

特別研究では、主体的な発想、思考や論理の組み立て、成果の分析など研究論文をまとめる能力を涵養し、研究者・教育者や実践の場で優れた指導性を発揮し得る人材を育成します。

高度専門医療職を目指す学生は、以下の専門看護師(CNS)、臨床研究コーディネーター(CRC)、地域完結型看護リーダーの教育課程を受講することができます。

専門看護師

高度化・専門分化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師(CNS: Certified Nurse Specialist)の資格認定制度があります。現在、がん看護や老人看護などの専門看護師の分野があり、資格をもつCNSが病院などで活躍しています。CNSになるには日本国の看護師の免許を有し、特定の専門看護分野の実務経験(3年以上)と、教育課程として認可された大学院博士前期(修士)課程での学修が必要です。教育課程には、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位数が、総計26単位と38単位のコースがあります。本学は群馬県唯一の専門看護師教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・老人看護・母性看護の専門看護師を養成する教育課程が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。さらに、がん看護・老人看護分野は、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程(38単位)を実施しています。実習も群馬大学医学部附属病院はじめ、在宅ケア機関等それぞれの分野で指定された施設で行われています。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。平成29年3月までに本学の修了生30名(がん看護20名、老人看護6名、慢性疾患看護3名、母性看護1名)が資格認定審査に合格しました。本学修了生のCNSは病院、診療所、施設、在宅ケア機関等で活躍し、実績を上げています。がん看護コースはe-learningを取り入れながら学習を行っています。

臨床研究コーディネーター

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター(CRC)やデータマネージャー(DM)と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル(臨プロ)」の称号が与えられます。

平成29年3月までに、9名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。



地域完結型看護リーダー

文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プロジェクト採択事業「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」では、地域完結型医療・ケアの考え方に立脚した看護実践および教育のできる人材の育成を行っています。

大学院教育課程においては、平成27年度から、履修証明プログラムとして、看護実践指導者養成プログラムを開設しました。基礎、応用、実践から構成される120時間のカリキュラムを2~3年かけて履修するもので、毎年10名を受け入れます。修了生は、自らが在宅ケアマインドに立脚した看護実践を行うとともに、学生指導や新人指導の役割を担います。また、平成28年度には、大学院博士前期課程に地域完結型看護リーダー養成コースを開設し、毎年3名を受け入れます。平成29年3月までに履修証明プログラム生9名、地域完結型看護リーダーコース1名が修了しました。修了生は、病院や地域の看護職、学生に対して地域完結型看護の知識や技術を浸透させる教育実践者・研究者として活動します。

詳細については、群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー

(<http://team-gunma.jp/>)をご参照ください。

授業科目

(共通科目)

授業科目
研究倫理特論
研究倫理特論 (Eラーニング)

(基礎保健学ユニット)

区分	授業科目
コア科目	医療倫理学特論 医療政策学・医療経済学特論 基礎保健データ解析学
基礎看護学分野	看護教育論 看護理論 コンサルテーション論 看護政策論 看護研究方法論 看護管理論 基礎看護学特論 基礎看護学演習 基礎看護学特別研究 看護管理学特論 看護管理学演習 看護管理学特別研究 看護学特別セミナー
検査科学分野	分子情報分析科学特論 分子情報分析科学演習 分子情報分析科学特別研究 生体情報検査科学特別セミナー
基礎リハビリテーション学分野	病態障害解析学特論 病態障害解析学演習 機能評価回復学特論 機能評価回復学演習 基礎理学療法学特別研究 作業活動分析学特論 作業活動分析学演習 作業機能評価学特論 作業機能評価学演習 基礎作業療法学特別研究 リハビリテーション学特別セミナー

(応用保健学ユニット)

区分	授業科目
ユニットコア科目	病態生理学 フィジカルアセスメント 臨床薬理学 がん病態機能学 先端医療特論 臨床試験特論 ウイメンズヘルステ論 学外特別研修
応用看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ 慢性看護学特論Ⅱ 慢性看護学特論Ⅲ 慢性看護学演習Ⅰ 慢性看護学演習Ⅱ 慢性看護学演習Ⅲ 慢性看護学演習Ⅳ 慢性看護学実習Ⅰ 慢性看護学実習Ⅱ 慢性看護学実習Ⅲ 慢性看護学特別研究

区分	授業科目	
応用看護学分野	慢性看護学課題研究 がん看護学特論 がん看護理論 がん看護学演習 がん看護緩和ケア演習 がん放射線療法看護演習 がん治療看護介入演習Ⅰ がん治療看護介入演習Ⅱ がん高度実践看護学実習Ⅰ がん高度実践看護学実習Ⅱ がん高度実践看護学実習Ⅲ がん治療看護学実習Ⅰ がん治療看護学実習Ⅱ がん看護学特別研究 がん看護学課題研究 精神看護学特論 精神看護学演習 精神看護学特別研究 母性看護学特論Ⅰ 母性看護学特論Ⅱ 母性看護学特論Ⅲ 母性看護学・助産学演習 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 母性看護学演習Ⅲ 母性看護学実習 母性看護学・助産学特別研究 母性看護学課題研究	
	小児看護学特論 小児看護学演習 小児看護学特別研究 看護学特別セミナー	
	機能情報解析学特論 機能情報解析学演習 機能情報解析学特別研究 組織・細胞情報解析学特論 組織・細胞情報解析学演習 細胞情報解析学特論 組織・細胞情報解析学特別研究 臨床試験演習	
	生体情報検査科学分野	生体情報検査科学特別セミナー
	応用リハビリテーション学分野	運動器障害学特論 運動器障害学演習 スポーツ理学療法学特論 スポーツ理学療法学演習 運動器・スポーツ理学療法学特別研究 作業活動応用学特論 作業活動応用学演習 作業機能獲得学特論 作業機能獲得学演習 心身機能作業療法学特別研究 リハビリテーション学特別セミナー



(地域・国際保健学ユニット)

区分	授業科目
ユニットコア科目	国際協力・保健学特論 加齢・老年学特論 異文化コミュニケーション論 地域保健医療研究概論 地域精神保健特論 在宅ケア学特論 医療保健英語Ⅰ 医療保健英語Ⅱ
地域・国際看護学分野	老年看護学特論 老年看護アセスメント論 老年看護システム論 老年在宅看護論 老年看護学演習 老年看護実践演習 認知症看護演習 老年看護高度アセスメント実習Ⅰ 老年看護高度アセスメント実習Ⅱ 老年高度実践看護学実習Ⅰ 老年高度実践看護学実習Ⅱ 老年高度実践看護学実習Ⅲ 老年看護学特別研究 老年看護学課題研究 在宅看護学特論 在宅看護学演習 在宅看護学特別研究 地域完結型看護実習指導論 地域完結型看護実践リーダー実習 地域看護学特論 地域看護学演習 地域看護学特別研究 地域健康推進学特論 地域健康推進学演習 地域健康推進学特別研究 国際看護学特論 国際看護学演習 国際看護学特別研究 疫学・生活習慣病予防学特論 疫学・生活習慣病予防学演習 疫学・生活習慣病予防学特別研究 看護学特別セミナー
地域・国際生体情報検査科学分野	生体防御学特論 生体防御学演習 生体防御学特別研究 公衆保健学・疫学特論 公衆保健学・疫学演習 公衆保健学・疫学特別研究 感染管理学特論 感染管理学演習 生体情報検査科学特別セミナー
地域・国際リハビリテーション学分野	地域・国際理学療法学特論 地域・国際理学療法学演習 地域・国際作業療法学特論 地域・国際作業療法学演習 地域・国際作業療法学特別研究 リハビリテーション学特別セミナー

(平成29年4月現在)

概要

1. 教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1) 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる者
- 2) 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる者
- 3) 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる者
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる者

<入学者に求める能力・資質>

- 1) 前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を持ち社会に貢献したいと考える人
- 2) 将来、保健医療・福祉等の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

<選抜方法>

学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。外国語（英語）では英語の文献を読解する能力を問います。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行い、研究者又は高度な専門性を有する職業人としての適性及び意欲を審査します。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

保健学専攻博士後期課程では、人材の育成を通じて社会へ貢献するために、次のような教育を行います。

- 1) 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる能力を育成する教育
- 2) 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる能力を育成する教育
- 3) 保健学の高度な専門知識と技術を有した、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

修了要件を満たした次のような者に博士の学位を授与します。

- 1) 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における研究、教育を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質（QOL）向上のための独創的あるいは学際的な研究を進められる者
- 2) 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた者

2. 領域及び教育研究分野

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎 リハビリテーション学 分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用 リハビリテーション学 分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学 分野

各領域の特色

看護学領域



看護学領域の特色は、看護学のKey Conceptsである「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことである。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩がある。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々のQOLを高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探究し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することである。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用いる。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成する。

生体情報検査科学領域



本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用について研究する。続いて、生体に生じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行う。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指す。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成する。

リハビリテーション学領域



リハビリテーション学で対象とする障害についてICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげている。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持つ。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とする。

看護学領域

■基礎看護学分野

基礎看護学は、看護学全般に共通する看護技術や諸理論ならびに看護管理等に関する看護を追求する分野である。その構成は基礎看護学と看護管理学である。

保健・医療福祉分野において看護・医療サービスを提供する際に必要な、看護学全般に共通しかつ基礎となる看護技術やその実践、サービス提供の仕組みとマネジメント、評価、その他看護実践における諸課題、看護技術の方法論的根拠の解明や医療看護状況の変化に対応した効果的な看護技術の開発などに関して、科学的研究を行う。

基礎看護学では、看護技術の基礎的手法からの方法論的根拠の解明や、医療看護状況の変化に対応した効果的な看護技術の開発などの教育・研究指導を行う。また、公衆衛生的観点や産業医学的観点、さらには疫学的観点および人体構造機能学的観点に立った看護の評価・マネジメントについて研究・指導を行う。

看護管理学では、質の高い看護提供システム、人材の育成、看護のマネジメントに関する研究・指導を行う。

■応用看護学分野

応用看護学分野においては、慢性看護学、がん看護学、精神看護学、母性看護学・助産学、小児看護学を包含する応用看護を追求する分野である。

慢性病、がんとともに歩む患者・家族、精神疾患とともに生きる患者やその家族の適応、セルフマネジメント向上に対する実践的で効果的なプログラムの開発と評価方法、測定尺度の開発、サバイバーを支援する有効なシステム構築など、障害を持つ人々に応用できる科学研究を行う。

ウイメンズヘルス、特に周産期、リプロダクション領域における女性とその家族の問題を解決、支援していくためのエビデンスに関する研究を行う。また自立して助産が実践できる高度保健医療人材育成のための教育プログラムの開発・評価に関する研究を行っている。

子どもの権利を擁護し、個々の健康ニーズに対応できるように臨床と地域との連携を図り、小児看護の社会的役割の拡大を視野に入れたこれからの小児看護を柔軟に創造できる人材の育成、教育・研究指導を行う。

さらに、慢性病、がん及び助産診断と助産などの高度看護専門者を育成する教育プログラムの開発とその

応用に関する教育・研究指導を行う。

■地域・国際看護学分野

地域・国際看護学分野においては、その視点からさまざまな教育・研究指導を行う。地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした看護技術とその評価に関する研究、特に、地域ケアシステム構築や施策化、地域の健康づくり推進、ケアマネジメント等、行政保健師が関わる研究課題を中心に教育・研究指導を行う。また、ヘルスプロモーションや、それに内包される健康教育と社会・文化・政策的環境への介入に関する教育・研究指導を行う。

高齢者ケアのアウトカムを高めるケア方法・用具及びエビデンスの開発と質改善の取り組み、経済・経営評価について、在宅療養のケアマネジメント、訪問看護ステーションの経営戦略を課題とした教育・研究指導を行う。また在宅療養生活に関連する看護支援について、療養者本人や家族、地域ケアシステムを視点とした研究、特に医療ニーズの高いがん患者や難病療養者をはじめとする慢性病患者を対象とした看護支援の課題について教育・研究指導をする。国際看護協力計画の開発や発展途上国における看護教育の支援技術、国内外の災害支援技術、災害看護に関する課題について教育・研究指導を行う。



生体情報検査科学領域

■基礎生体情報検査科学分野

基礎生体情報検査科学分野においては、分子レベルでの生体情報の効率的な収集技術の開発並びに得られた情報の解析手法の構築について教育・研究を行う。本分野では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学分野の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。

■応用生体情報検査科学分野

応用生体情報検査科学分野においては、代表的な生活習慣病である血管・循環器系の疾病の検査を中心に、病態生理及びその解析技術、超音波検査を始めとする新しい画像解析診断技術の応用について研究する。また、臨床生理や循環器の臨床検査部門における特殊検査技術の実践能力を養成するとともに、地域において健康な人々を対象に疾病予防の指導や相談に関わることのできる能力の養成を目指す。また、生体に生ずる種々な疾病による組織学的変化を、免疫組織化学的及び分子生物学的な最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。さらに、病理学的・細胞学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。また、腫瘍性疾患及び自己免疫疾患の病態解析のための最新技術を修得し、さらに、血液疾患の検査法開発のための研究や細胞培養最新技術を教育する。

■地域・国際生体情報検査科学分野

地域・国際生体情報検査科学分野においては、微生物や寄生虫感染症の特殊検査法の開発、病院における感染予防管理のための効果的な処理法の開発及び感染の初期防御での細胞の働きから、最新の免疫学に関する教育・研究を行う。また、観察的研究手法、介入的研究手法等の疫学の理論的側面の教育により、国内外の地域保健医療分野に寄与する疫学的病因追求実践能力を養成する。また、マラリア等の国際感染症や国内外で問題となっている新興・再興感染症の迅速かつ簡便な検査技術の研究・開発を始め、各国・各地域において生ずる様々な公衆保健学的問題に対処できる高度な能力を涵養するための教育・研究を行う。生体を取り巻く環境からの保健情報の迅速かつ簡便な検査法開発とその情報を基に、地域・国際の保健対策と評価を実践する。検査・疫学・予防についての高度な知識・技

術により、開発途上国の保健医療分野での活躍ができる特色がある。

リハビリテーション学領域

■基礎リハビリテーション学分野

基礎リハビリテーション学分野においては、病態及び障害の解析、機能評価・回復学に関わる基礎医学的・基礎理学・作業療法的な教育・研究を行う。具体的には、リハビリテーションの対象となる神経・筋、骨・関節、呼吸・循環、内分泌・代謝系の疾患による機能・能力障害の機序を解析するための生理的・動作学的な解析手法について教育・研究を推進する。

■応用リハビリテーション学分野

応用リハビリテーション学分野においては、運動器系の障害やスポーツ活動による障害の発生機序と治療法、健康増進のための運動療法、アスレティックリハビリテーションに関する教育・研究を行う。具体的には、日常生活やスポーツ活動による動作特性の運動学的解析や体力科学的な分析・アプローチについて教育・研究を行う。また、身体・発達系、老年期、精神障害系の作業障害について、作業療法学理論の治療科学としての構築と臨床的な応用方法に関する教育・研究を行う。さらに、主要な疾患障害別及び理論別回復仮説に基づき治療効果の検証のための研究を指導する。

■地域・国際リハビリテーション学分野

地域・国際リハビリテーション学分野においては、国内外の地域リハビリテーションや国際保健医療協力の歴史と理念を踏まえ、対象地域及び対象国へのリハビリテーション・サービスの運営と管理、保健医療・福祉に関する学際的な研究を指導する。具体的には、障害を持って能力を発揮して地域で暮らすための支援などICFの「活動」「参加」に関する課題が本分野の研究・教育の中心となる。さらに、訪問リハや通所リハなどの介護保険のリハ、介護予防と地域作り、ソーシャルサポート、日常生活用具、就労支援や在宅復帰支援、国際協力・支援などに関する教育・研究を行う。



カリキュラム編成

博士後期課程では、7ページの「教育ポリシー」に基づき、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

授業科目は、全領域共通の共通コア科目と各領域の教育研究分野特有の専門教育科目から構成されています。
 ◎共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、

医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。

- ◎専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。
- ◎特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の読解力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

授業科目

(共通コア科目)

授 業 科 目	
医学哲学・倫理学セミナー	
応用保健学セミナー	
医療政策学・医療経済学特講	
研究倫理特講	
研究倫理特講 (Eラーニング)	

(看護学領域)

区 分	授 業 科 目
	看護学研究概論
基 礎	基礎看護学特講
	基礎看護学演習
	看護管理学特講
	看護管理学演習
	基礎看護学特別研究
応 用	慢性・がん看護学特講
	慢性・がん看護学演習
	精神看護学特講
	精神看護学演習
	母子看護学・助産学特講
母子看護学・助産学演習	
応用看護学特別研究	
地 域 ・ 国 際	老年看護学特講
	老年看護学演習
	在宅看護学特講
	在宅看護学演習
	地域看護学特講
	地域看護学演習
	国際看護学特講
	国際看護学演習
	地域健康推進学特講
	地域健康推進学演習
	疫学・生活習慣病予防学特講
	疫学・生活習慣病予防学演習
地域・国際看護学特別研究	

(生体情報検査科学領域)

区 分	授 業 科 目
	生体情報検査科学研究概論
基 礎	分子情報分析科学特講
	分子情報分析科学演習
	基礎情報科学特別研究
応 用	機能情報解析科学特講
	機能情報解析科学演習
	組織・細胞情報解析科学特講
	組織・細胞情報解析科学演習
	応用情報科学特別研究
地 域 ・ 国 際	生体防御学特講
	生体防御学演習
	地域・国際疫学特講
	地域・国際疫学演習
	地域・国際情報科学特別研究

(リハビリテーション学領域)

区 分	授 業 科 目
	リハビリテーション学研究概論
基 礎	基礎理学療法学特講
	基礎理学療法学演習
	基礎作業療法学特講
	基礎作業療法学演習
	基礎リハビリテーション学特別研究
応 用	精神・脳機能障害リハビリテーション学特講
	精神・脳機能障害リハビリテーション学演習
	健康・スポーツ障害リハビリテーション学特講
	健康・スポーツ障害リハビリテーション学演習
	応用リハビリテーション学特別研究
地 域 ・ 国 際	地域・国際リハビリテーション学特講
	地域・国際リハビリテーション学演習
	地域・国際リハビリテーション学特別研究

(平成29年4月現在)

特色のあるプログラム

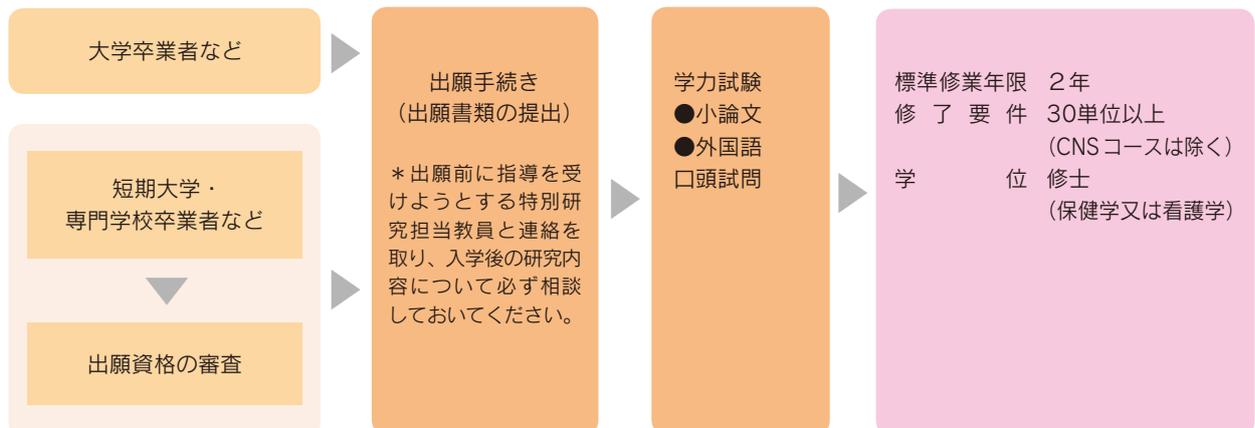
地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム 地域保健学研究プロジェクトを基盤とした実践的大学院教育

これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)の支援を受けました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大

学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。平成28年度までに38名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け、地域社会で活躍しています。

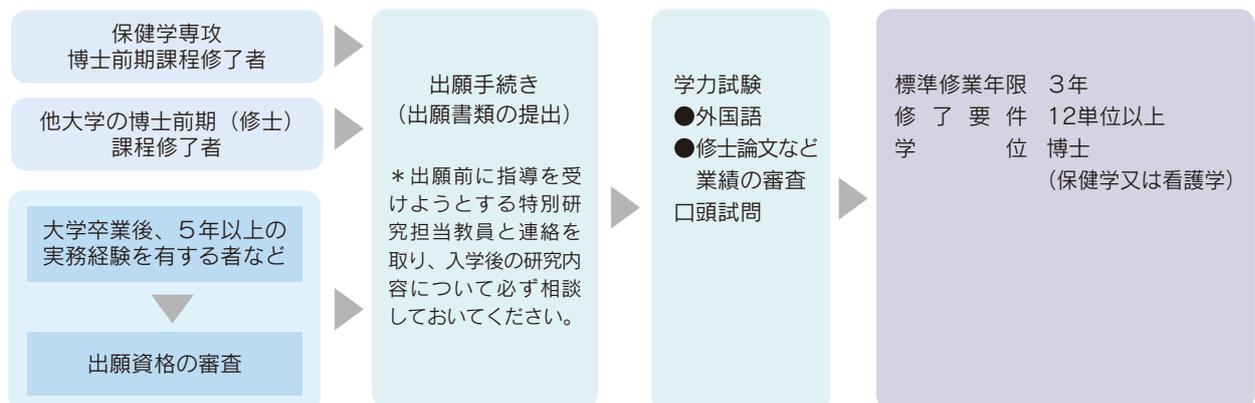
入学から修了までのプロセス

保健学専攻博士前期課程



※出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

保健学専攻博士後期課程



※出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予
特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。
2. 奨学金紹介
本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。
3. ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）
大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではTA、博士後期課程ではRAとして採用します。

社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果、平成29年度博士前期課程では全学生の48%、博士後期課程では78%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を

有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、平成19年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

1. 昼夜開講制、土日の集中講義

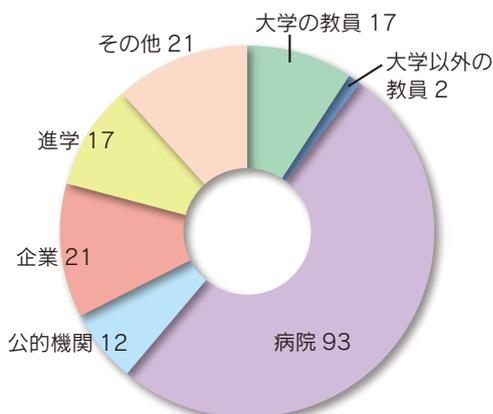
開講時間は、昼間：8：50～17：50、夜間：18：00～21：10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。

2. 長期履修学生制度

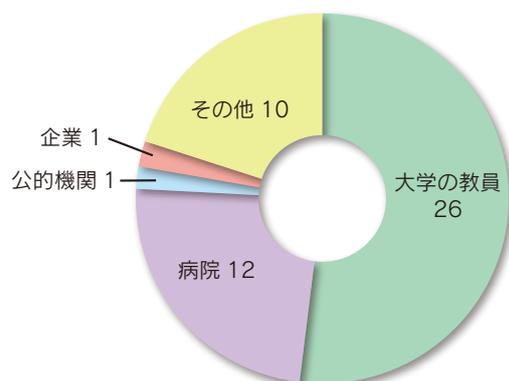
職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年数で除した額となります。

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含まれます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRCなど）などに多く就職しています。



平成25～28年度、博士前期課程修了者の進路



平成25～28年度、博士後期課程修了者の進路



- [前橋駅から] 渋川駅（小児医療センター）行きバス乗車→群馬病院入口下車
約13分徒歩6分
- [前橋駅から] 群馬病院行きバス乗車→群馬病院下車 約15分
- [渋川駅から] 前橋駅行きバス乗車→群馬病院入口下車 約30分徒歩6分



群馬大学大学院保健学研究科 保健学専攻

〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-22

TEL 027-220-7111（代表）

※特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。